



専門学校誘致の候補地とされている土地（田中）現在は市役所職員の駐車場として利用されている。手前道路は18号線

北御牧地区について

武井 北御牧、東部とも特色、独自性を活かしたまちづくりを行っていきけるようにして欲しいです。先ほども合併の話がありました、やはり統一されることに不安を感じますね。

市長 地域の特色を活かしたまちづくりは合併したとしても重要なことです。先ほど和コミュニティセンターの話

が出ましたが、和地区はその昔「和教育」といわれるほど教育に熱心だったんです。今でもその意識は伝承されており、コミュニティセンターをつくることにも多くの意見が出されています。そうした地域の特色はそのまま活かしていきたいです。思うに「情報の一元化」がキーワードです。北御牧と東部での情報を共有化できるようにしていきたいですし、それがどんな方法がいいか模索しています。



神の倉工業団地（丸子町）

社会教育委員の会で「コミュニティセンターを活用した地域活性化」について話したことがあります。例えばピアノを置くのほどうかなど。コミュニティセンターをもっと活用されるようにするためには、「人が集まる場」にすることだと思っています。現在の中央公民館をみると多くの人が利用していますが、地域の人が集まってくるようにしたい、それがポイントだと思っています。

す。だから市民がもっと関心を持たないといけない。昔と今とはごみ事情が違います。今は何か物を買ったと包装や容器などのゴミが必ず出ますので、少しでもゴミの量を減らしたり、市民全員が関心を持って考えていく必要があります。行政も情報を積極的に提供していかねばいけないと思います。

武井 住民が反対している理由は、排気ガスが流れることにより、自然や農作物、人間への影響があることです。また、その他にガス化溶融炉だと24時間高温で燃やし続け

いといけないのでごみがたくさん必要になることです。家庭のごみが無くなれば工業用のごみまで受け入れるということもあるようです。これは資源や自然を守るためにリサイクルを勧めたり、ごみの減量化に取り組んでいる流れに逆行するものです。

地域コミュニティについて

市長が言われる子育てと後の安心をコミュニティセンターで連携させて考えてみると、例えば大広間でおじいちゃん達が囲碁をし、子ども達はピアノで歌を歌ったりピアノを弾いたり、絵本を読んでいる子供がいたり、世間話をしていられるおばあちゃん達がいる。そうした空間では誰かが見ているから何かあっても安心できる。そして情報があるところには人が集まりますので、図書館の本などもあるといいという提案もありました。一日公民館にすることができ、子育て、老後、地域コミュニティ、生涯学習など連携した活動ができればいいと思います。

市長 図書館の改築は行っていく予定ですが、地区館を活用するうえでの本を置くというのにもよい意見だと思います。



勉強したり、本を読んだり、運動したりと児童館は子ども達にとって「集まりの場」である（田中児童館）

コミュニティセンターを活用した地域活性化について話したことがあります。人が集まり一日中公民館にいられる空間づくりをしていくことはどうか。

武井 情報が伝わるということとはとても大切なことです。

佐藤 そうですね。今回こうした座談会を開いたお陰で市長をはじめ参加者の皆さんの考え方がわかりました。お互いに情報交換が出来て良かったです。こうした意見を市報でもっと取り上げて欲しいですね。

武井 市長さんは東部のことはよく知っていると聞きます。しかし、東部と同様に北御牧にももっと足を運んでいただき、住民の生の声を聞いて欲しいです。

市長 北御牧地区には、地域審議会を近いうちに立ち上げたいと考えております。そして、北御牧地区の活性化についても検討していきたいです。また、市民の皆さんの要望に応じて「どこでも市長室」を開催し、ひざを交えて話をしたいと思っています。



も見逃せません。この計画の具体的な内容についてお聞かせください。

市長 まちづくりの活性化として、どんなことが望まれるのかいろいろありますが、未来を担っていく若者達が集まり、活気のあるまちにするため、専門学校の誘致を考えています。学科は「救急救命士学科」と「柔道整復師学科」で目的意識を持った若者が全国から集まるものと期待しています。生徒数は約200名と多くの学生が入ってくるので、飲食店街やアパートの幹線、そしてイベントにも参加していただいたり、様々なところに活気と経済的な効果を生み出されるのではないかと期待しています。

市長 今日はいろいろなことについて皆さんからご質問をいただきました。ありがとうございます。

専門学校誘致

佐藤 田中市街地の一角に専門学校の誘致を進められていますね。学校施設は確かに魅力的ですが、また誘致にあたっては市としても多額な財政負担を強いられること

特集
土屋市長に聞く今後のまちづくり